

大都市圏へ「還流」されていた原発電力

中 寫 哲 演

「高らかに笑っているのは 滅びの神」

不当な原発立地の歴史と構造は、両極において、重大な歪みを生み出してきた。その典型的な一事例が、このたびの「関西電力の原発マネー不正還流」問題である。一方の極に、高浜原発現地のフィクサー的な森山栄治氏のような存在、他方の極に、原発を遠隔の過疎の町に押し付け、「フクシマ」後も再稼働・延命に妄執し、電気料金を原資とする不正な還流金まで収賄するような関電経営陣の幹部たち。しかし、その根底には、原発電力が過疎・辺境の地から大都市圏へ「還流」されていたという紛れもない事実のあることを軽視してはなるまい。

その他方の極について、「関西電力良し隊」の6月8日付の内部告発状が、「福井から原発を止める裁判の会」に郵送されてきた。その文中には以下のような一節があった。「原発の建設、運転、定期点検、再稼働工事の過程で、工事費等を水増し発

注し、お金を地元有力者、及び国会議員、県会議員、市長、町長等へ還流させるとともに、原子力事業本部幹部職員が現金（億単位）を受け取っていた……そして、その水増し発注工事費は、★電気料金に加算・計上されていた」（原文のまま）と。

例えば、高浜3・4号機の増設前後をふりかえってみよう。1977年秋に「原子力発電に反対する福井県民会議」がとりくんだ増設反対10万人県民署名の達成、78年に発覚した当時の浜田町長（森山助役）の個人口座へ関電から振り込まれた「黒い9億円（10数億円とも、20数億円とも）問題」を、同会議が追及し、町内一円でくりひろげた宣伝行動（町民へのアンケートも）、「高浜の海と子どもたちを守る母の会」による町長や議会への請願活動などを、増設推進派はものともせず、札束が飛び交う町長選挙（78年秋）にのぞんだ。4000票対3600票で、増設の公約を掲げた浜田町長は辛勝、5選をはたした。後日談として、関電や大手ゼネコンの熊谷組、それらの下

請け企業の従業員が住民票を600名も選挙前に移していたことが判明したものの、それを示唆したのが森山助役であったと知らされたのはごく最近のことである。高浜町役場の職員に県庁へ足を運ばせ、県知事あての前記の町民署名分をカメラにおさめさせ、有力な署名者に圧力を加えたのも助役ではなかったかと今では断じざるを得ない。森山氏が還流したのは黒い金ばかりではない。

高浜町の44歳で逝った詩人の大西ひとみさんが、その頃に書いた「笑う」という一篇の詩を紹介しておきたい。

「わたしたちのまちには／密かな笑いがよどんでいる／町長の笑い／電力会社の笑い／漁師の笑い／原発労働者の笑い／それぞれの立場で／ゆがんだ思いを笑っている／原発の町の空の下／逃げ出せる準備のあるものと／行くあてもない人々の／はつきり引かれた線の上で／高らかに笑っているのは／滅びの神」

（1994『大西ひとみ全詩集』より）

不正がなければ、再稼働は許されるのか？

「フクシマ」後の1～2年、大都市圏の市民の中からも湧きあがった反・脱原発の

世論と運動に呼応するかのようには、霞が関中枢部の超エリートたる若杉冽・著『原発ホワイต์アウト』（2013年9月）と『東京ブラックアウト』（2014年12月）が、いずれも講談社から出版された。その前著の114ページから。

「関東電力の供給区域にお住まいの方が、他の電源よりも安いと信じておられる原発の電気が欲しいのであれば、どうぞ関東で原発を作って動かしてみてください。事故の起きたフクシマだって、ここ新潟だって、関東電力の供給区域の外なのであります。安全だと思われる方が、ぜひ、ご自身の地元で原発を動かしてみてください」

95%がノンフィクションの小説と喧伝されているように、「関東電力」が東京電力、「新潟」が新潟、柏崎と読み替えることはたやすい。この発言者は「新潟県知事の伊豆田清彦」、つまり泉田裕彦新潟県知事がモデルだ。この泉田知事が現実にとどのよう

に失脚させられたかを、この著作ほどリアルに解明してくれるものはあるまい。まだ氷山の一角に過ぎない関電事件の水面下の巨塊に迫るうえでも、また原発に固執し、推進する政・財・官などのリアルな実態を認識するうえでも、一読、再読に値しよう。

さて、「原発銀座・若狭」は、15基もの世界一の密集地帯である。そのうち11基が関西電力の原発。さすがに、美浜1・2号機と大飯1・2号機は廃炉になった。しかし関電は、残る高浜3・4号機と大飯3・4号機は再稼働を強行しているし、40年超の老朽原発（美浜3号機と高浜1・2号機）の再稼働すら企図している。それらの「安全対策工事費」は8千数百億円とも、1兆円をこえるとも言われている。その元請けは大手ゼネコンであり、件の「吉田開発」の特定注もいわば末端の下請けに過ぎない。だからといって、森山氏や吉田開発の行為を免罪するわけにはいかないが。まだ「国策民営」の影がちらつく程度だが、福井選出の稲田朋美衆院議員への森山氏関係の献金（36万円）や関電によるパーティー券の購入（50万円）、世耕弘成・元経産大臣への関西の関連企業からの献金（600万円）、プルのサーマルを推進した経産省職員の高浜町への出向など、微々たる報道に限られている。深く、広く張り巡らされた国策民営の全容解明なしに、今回の事件の安易な幕引きは許されない。

関西電力のホームページによれば、火力発電所は11か所に35基、総出力1696・64万kw。そのうち、日本海側の2か所4基、255万kwを除くと、兵庫・大阪・和歌山

の瀬戸内海沿岸に9か所31基、1441・64万kwが立地していることになる。ところが、原子力発電所は若狭の3町（美浜・おおい・高浜）だけに11基、976・8万kwが集中している。しかも、その電力はすべて超高压電線で関西圏へ送電されてきたのである。本当に電力が必要で安全ならば、数万kwの電力需要しかない若狭に、なぜ「関西」電力の原発が設置され、「フクシマ」の惨禍の後においてすら、事故時に平常値の1万倍もの放射能汚染下で30km圏内の住民が避難する計画をおり込み済みの再稼働が、なぜ強行されるのか？

たとえ新規規制基準に規制委員会が適合していると判断しようが、たとえ裁判所が再稼働を認めようが、仮に今回のような不正が克服されようが、若狭の一住民としては、この根本的な疑問に真つ当な回答を求めずにはいられないのである。

「原発ゼロ法案」の徹底審議と制定を！

原発銀座のど真ん中の小浜市民である私にとって、2019年も原発に明け、原発に暮れようとしている（その小浜市民は過去40余年間、小浜原発の誘致を3回、使用済み核燃料中間貯蔵施設のそれを2回、有権者過半数の署名運動などで阻止してきたのだが）。

2月26日から3月9日までの12日間、私

は通算7回目の断食抗議を執行した。その理由・目的は、①美浜3号機と高浜1・2号機の老朽原発再稼働をめざす「安全対策工事」の中止、②「原発ゼロ法案」の審議開始であった。高浜1・2号の工事に2160億円、美浜3号のそれに1650億円も投入されているのに、工事完成の時点で再稼働阻止を叫んでも虚しいとみなしたからである。

3月19日に大飯3・4号機の運転差し止



10月14日、東京・憲政記念会館で行われた「関西電力の原発マネー不正還流を告発する会」の集会で発言する筆者（撮影：対馬芳）

めの仮処分を、さいたま市民の田内雄司氏（元・日立関係の技術者）と2人だけで福井地裁に提訴、2回の審尋（6、7月）、訴状と16回の主張書面、1〜65号証までの証拠書類も提出して集中的にとりくんだが、7月と9月の3、4号再稼働を追認するかのように、10月16日に武宮英子裁判長は私たちの申し立てを却下した。若狭への差別的な立地構造、放射性廃棄物の後世代への負担押し付けなどの「倫理的な観点を判断枠組みの根底に」といった私の主張などは一顧だにしない。

そして9月27日、関西電力への不正還流金の衝撃的な第一報以来、全メディアの情報合戦と広範な世論の沸騰によって、さしもの傲慢な関電経営陣のトップも辞任に追い込まれた。が、まだ氷山の一角での緒戦の勝利に過ぎない。水面下の巨塊の解明なくしては、残る7機の廃炉も実現できない。私も呼びかけ人の一人である「関西電力の原発マネー不正還流を告発する会」の真の使命もそこにあるはずだ。

格調の高い前文と25条からなる「原発ゼロ法案」の正式名称は、「原発廃止、エネルギー改革を実現するための改革基本法案」である。とくに、第9条の7項目中、5項目の「実用発電用原子炉等を廃止し、又は使用済燃料の再処理の事業を廃止しよ

うとする者に対し、必要な支援を行なうものとする」とや、7項目の「新たな産業の創出、電気事業者の事業の継続等により、原子力発電所等の周辺の地域の経済の振興及び雇用の確保を図るものとする」とは、注目・留意すべきであろう。なぜなら、再稼働に固執する事業者や、再稼働に同意する地元関係者の根拠が失われる内容なのだから。この「法案」の徹底審議が公明正大に行なわれるならば、自ずと本法の制定に導かれざるを得ないだろう。

「原発動かすな！ 実行委員会@関西・福井」のよびかけによって、若狭・福井と関西を結びレーデモを展開し、12月8日に関西電力本店を包囲する大集会が予定されている。私もぜひそれに加わることにしたい。

（なかじま・てつえん／小浜・明通寺）

*「関西電力の原発マネー不正還流を告発する会」が裁判のために募っている告発人は、当初の目標の1000名をはるかに超え、11月29日現在2526名に達している。

「関西電力の原発マネー不正還流を告発する会」事務局
〒910-0859

福井県福井市日之出3-9-3

原子力発電に反対する福井県民会議気付

ウェブサイト

<http://kandenakan.htmlxdomain.jp/index.html>